

2回目の穂肥は確実に施用しましょう！

高温・多照により生育が進み、葉色が低下してきました。今後も高温が続くことが予想されるため、出穂はやや早まり、平年並となる見込みです。

1 7月19日現在の生育状況（品種：コシヒカリ 拠点ほ場7か所の平均）

● 茎数は目標値より多く、草丈は並。葉色は低下しているが目標値並。生育の地域差大きい。

		本年値 (分施肥系)	前年値 (前年比・差)	目標値 (カンタ [®] -生育目標値比・差)	本年値 (*一発体系)
草丈(cm)		77	75 (103%)	75 (103%)	85
茎数(本/m ²)		458	413 (111%)	430 (107%)	416
葉数(葉)		11.6	12.1 (-0.5 葉)	12.0 (-0.4 葉)	11.8
葉色	SPAD 値	33.3	38.2 (-4.9)	33.0 (+0.3)	39.0
	葉色板	3.4	3.4 (±0.0)	3.6 (+0.2)	4.0

*一発：H30 から基肥一発体系(全量基肥施肥)数値を参考として掲載します

2 今後の管理ポイント

- (1) 今後も高温が予想されます。稲に体力を付けるため、2回目の穂肥を出穂の10~12日前を目途に必ず施用しましょう(5割減減の化学窒素分量を超えないように注意)。
- (2) 高温・干ばつが続いています。稲は幼穂が形成されるときに水分が多く必要です。間断かん水を実施し溝に水がある状態を保ちましょう。
- (3) 有機基肥一発肥料を使用した場合、基本的に穂肥の施用は不要ですが、葉色が急激に落ち、葉色板(佐渡米穂肥適期スケール)で3.5以下まで下がった場合のみ出穂の12日前までに穂肥を施用し、後期栄養を確保しましょう(5割減減の化学窒素分量を超えないように注意)。
- (4) 草丈や下位節の伸長が進んでいる場合、1回目の穂肥を施用するほ場では、生育をよく観察して可否や散布量を慎重に判断しましょう。

※ こまめな水分補給と休息で熱中症を予防しましょう！